曹源寺
（岡山県指定文化財・史跡）

I-4

・曹源寺は、十一面観音を本尊とし、臨済宗妙心寺派に属している備前国第一の禅寺です。岡山藩主池田綱政が、元禄11年（1698）に、高祖父信輝と父光政の菩提を弔い、自らの冥福をも祈るため建立しました。山号を護国山といい、絶外和尚を開山に迎え、家臣上坂外記に命じて造営されました。山を背にした南面平地に、広い寺地を設けて建設された近世平地伽藍は、禅宗建築の代表的なものです。伽藍の両脇には真言宗・天台宗・日蓮宗・浄土宗・禅宗の末寺が配置してありましたが、現存するのは天台寺（天台宗）と大光院（日蓮宗）の2寺です。堂舎の東に広がる池泉回遊式の庭園は絶外和尚と津田永忠との合作になる築造で江戸中期のすぐれた禅庭です。

（現地解説板〔岡山市教育委員会、平成5年3月〕より）

曹源寺の松並木
（岡山県指定郷土記念物）

I-5

・「曹源寺口」の標識にしたがって歩くと、松並木があります。これが県郷土記念物に指定されている曹源寺の松並木です。

（わたしたちの富山〔富山青少年ふるさと教室編集、平成5年3月31日〕より）

Aルート《曹源寺バス停》

Bルート《Bルート分かれ》

金蔵山古墳

H-3

・この古墳は、操山古墳群最大の前方後円墳で4世紀末から5世紀初めに築造されたと推定されます。墳丘は全長165m、前方部巾72m、同高15.5m、後円部径100m、同高18mで三段築式と推定されます。昭和28年に倉敷考古館によって発掘調査が行われ、後円部に二つの竪穴式石室と一つの副室が発見され、墳丘全体に埴輪が三段に配列されていることがわかりました。これらの石室からは、鎌、鍬、斧、のじ、錐、やりがんな、のみなどの農・工具を中心に刀、剣、鉾、鏃、刀子、短甲（よろい）などの多量の鉄製品をはじめとして筒形銅器、合子、管玉、勾玉、鏡など貴重な副葬品が出土しました。金蔵山古墳は、吉備地方において造山、作山、両宮山の各古墳についで第四位の規模をもち、古墳時代の吉備地方に君臨した首長の様相、性格などを示すもので重要な文化財です。

（現地解説板〔岡山市教育委員会、昭和46年11月〕より）

石鉄山古墳

H-3

・操山54号墳。操山山頂付近にあります。直径13mの円墳で、高さは2mあります。石室の形式は、横穴式石室で全長は9.2m、また、玄室長4.3m、玄室幅1.8m、羨道幅1.7m、左方袖式です。

（わたしたちの富山〔富山青少年ふるさと教室編集、平成5年3月31日〕より）

ゴロゴロ大師

I-3

・頭をつっこむと「ゴロゴロ」と音がする岩がありました。ご祈祷をしているうちに次々と参る人が増え列をなしたといいます。あまりにはやったので、西大寺線の軽便鉄道の長岡駅、藤原駅の間に新しく大師駅ができました。特に21日のお大師様の日はにぎやかで出店がずらりと並んでいました。ゴロゴロ大師は、何でもかないますが、お産の神様ともいいつたえられています。終戦後はさびれましたが、現在もお堂と岩は残っています。

（幡多二千年の歩み〔幡多二千年の歩み編集委員会編集、平成8年5月〕より）

てくてくロード

岡山市には、温暖な気候に育まれた自然が多く残り、吉備の国のもたらした古代の歴史的資源をはじめとする数々の歴史的、文化的遺産も多く、四季折々の風物も豊かです。しかし、車社会と呼ばれる今日では歩くことが少なくなり、これらの貴重な資源に触れる機会が減少し、歩くという健康的な活動から遠のいているといえます。このような状況を改善するため、岡山市では環境にやさしいまちづくりを進める一環として、ふるさと岡山をゆっくり歩き、身近な自然とのふれあいの場を提供する遊歩道の展開へ向けて「岡山市遊歩道ネットワーク（てくてくロード）」を策定しました。
遊歩道ネットワークが広く市民に活用され、ふるさと意識の醸成、歴史文化財への理解、さらに健康づくりに貢献することを願っております。

ルート内の主な公共施設

天満屋バスステーション…TEL086-231-7733	岡山城事務所……TEL086-225-2096
岡山電気軌道……TEL086-272-1811	おかやま三光荘……TEL086-272-2271
内山下交番……TEL086-222-4555	岡山東郵便局……TEL086-273-9401
富山交番……TEL086-277-8346	岡山古京郵便局……TEL086-273-9901
東山交番……TEL086-273-0942	岡山円山郵便局……TEL086-277-2361
中央公民館……TEL086-272-7886	岡山海吉郵便局……TEL086-277-2811
富山公民館……TEL086-274-0827	
神原病院……TEL086-225-7111	
岡山協立病院……TEL086-272-2121	
岡山シンフォニーホール…TEL086-234-2001	
林原美術館……TEL086-223-1733	

岡山市遊歩道ネットワーク
《てくてくロード》
操山ルートマップ

第3版：2008年（平成20年）3月発行
岡山市

お問い合わせ
岡山市都市整備局道路建設課
TEL086-803-1000（内線3742）

あきカン・ゴミは持ち帰りましょう

笠井山山頂

J-3

・操山山塊には、総数約130基の古墳が確認されていて、操山古墳群と言われています。山塊の一部をなす笠井山にも、南東斜面の各所に三十数基の古墳が所在し、笠井山(支)群とされています。この支群には、地域の統括者の古墳に見立てられている巨石墳や、石棺を伴う石室に欠けますが、大型・中型・小型・極小の各種の石室や古墳の集合した群衆墳など、後半期古墳の大部分の形態が揃っています。従って、後半期古墳自体に限らずこの時代の家族や村の構成を研究するうえから貴重な文化遺産です。

（現地解説版より）

吉備津岡辛木神社

J-4

・神社は操山山塊の東端にあります。御祭神は吉備津彦命の弟、吉備若建彦命で、海吉・福泊（旧笠井邸より東）地区の氏神様です。また、吉備津彦命が温羅という悪者を平らげ、平和な国作りを行ったとき、当神社の祭神、吉備若建彦命も上道・海面のあたりを平定したということです。この神社は古くは吉備明現宮と言いました。航海の目標である北斗七星を祭る神として信仰を集めました。また、新しい事を始めるときの道開きの神様として参拝する人も多いといわれています。社殿は東に面していて、江戸末期の文政12年（1829）の建築です。一間社流造桧皮葺の本殿・入母屋造瓦葺の拝殿・釣殿などの建築が並び、随神門は三間一戸の八脚門です。

（わたしたちの富山〔富山青少年ふるさと教室編集、平成5年3月31日〕より）

Bルート《福泊バス停》

岡山市遊歩道ネットワーク てくてくロード⑤

操山から市街地を見下ろす

操山ルート

総延長距離 約15.6km

操山ルートは、岡山城、林原美術館、神社、寺など歴史・文化資源が数多く分布するカルチャーゾーン、御成川沿いや内田百閒にちなんだ資源を散策する御成川ゾーン、操山を登り、古代の歴史や新たに整備された操山公園を歩き、頂上から岡山市の市街地を眺める操山ゾーン、曹源寺の歴史をたどる曹源寺ゾーンに大きく分けられます。おすすめの県庁前から操山の西部、中央部を歩き、曹源寺へ至るAルートは約7.0km、操山東部を歩くBルートは、3.7kmです。

岡山城、林原美術館をはじめとする歴史・文化資源
カルチャーゾーン

御成川沿いの散策と内田百閒ゆかりの資源
御成川ゾーン

操山の自然や古代の歴史に触れ、頂上から岡山市市街地を望む
操山ゾーン

曹源寺の歴史をたどる
曹源寺ゾーン

瓶井の赤門
（岡山県指定文化財・建造物）

D-3

・少林寺から山麓づたいに北に行くと、ベンガラ塗りの瓶井山禅光寺安住院の仁王門があります。一般には「瓶井の赤門」と呼ばれています。このあたりは、操山の山ふところに抱かれているようなところで、かつてこの地は多くの僧坊で埋め尽くされ、この地方の真言宗の勢力の中心でした。仁王門は県指定の重要文化財です。康正2年（1456）建築で中央通路の両脇に金剛力士が肩をいからせて訪れる人を見据えています。

（現代のまほろばOKAYAMA自然と文化をたずねて〔岡山市経済局観光物産課編集、昭和53年6月〕より）

安住院
（岡山市指定文化財・建造物）

D-4

・この寺院は、天平勝宝年中（749～756）に、報恩大師が創建した備前48ヶ寺の一つと伝えられる禅光寺の本坊であり、現在は真言宗の寺院で、千手観音を本尊とする名刹です。禅光寺は一山の寺号で、往時の寺中には多くの塔頭（院）があり、寺城の瓶井の谷は僧坊で埋まっていたといわれています。近郷に数多くの末寺をもち、この地方における文化や仏教の中心的存在として栄えていました。（現地解説板〔岡山市教育委員会、平成元年3月〕より）

安住院多宝塔
（岡山県指定文化財・建造物）

D-4

・この塔は岡山平野を一望に収める瓶井山の中腹に建立された二層の塔婆です。宝形造りの本瓦葺で、総高20mです。下層は、方三間（約5.6m）の柱間で円柱を用い、組物が和様の二手先で尾垂木を出して、支輪と軒天井をかけています。四面の各中央部の蟇股の彫刻は、各方位に即した四神を配置しています。この多宝塔は元禄年間（1688～1703）に時の藩主池田綱政が後楽園の借景として建立に着手したと伝えられ、「みかえりの塔」として今日まで親しまれています。（現地解説板〔岡山烏城ライオンズクラブ　監修　岡山市教育委員会、平成元年6月〕より）

烏城みち

A-3

・城下から林原美術館前を通り、岡山城（烏城）に続く道が烏城みちです。道沿いには、対面所長屋門、烏城、外目安門跡など岡山城下にちなんだ資源があります。周辺は、カルチャーゾーンに指定されています。

（岡山の地名〔岡山市地名研究会著、岡山市編集・発行、平成元年4月1日〕より）

岡山城

（国指定文化財・史跡）

B-3

・備前の国邑久から起こった宇喜多直家が、岡山の地・石山の城にいた金光宗高を亡ぼして城郭を拡張し入城したのは天正元年（1573）の秋でした。それまでは金川の松田氏に属する小城に過ぎませんでしたが、直家はこの城を本拠として城下町の建設に着手し、岡山の繁栄の基礎をつくりました。その子八郎秀家は、豊臣秀吉の殊遇を受け、直家の遺領である備前、美作のほかに備中の内の高梁川以東をも加え、57万石をこえる大領主となりました。ここにおいて秀吉の意見に従い、石山の東に本丸を移して城郭の拡張整備を行い、慶長2年（1597）、3層6階の天守閣が落成するにおよんで、城ぶしんは一段落しました。これがこの地に豪壮きわまりない石垣と内堀を残す岡山城本丸であって、さらに西南の平地に二之丸、三之丸などが城域を画し、近世城下町の骨格ができあがったのです。宇喜多秀家は、慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いに出陣、一敗地に塗れて八丈島へ流されました。その後小早川秀秋が筑前の国・名島から移って岡山城主となりましたが、在城わずか2年余りで急死し、後継者がいなかったのでこの家は断絶しました。そのあと姫路城主池田輝政の二男、忠継に備前一国が与えられ岡山城にはいりました。以後池田氏31万5千石の時代が続き明治維新に及びました。

（現地解説板より）

二之丸跡

B-4

・県庁のあるあたりが、二之丸があった所です。県庁の北側の旭川沿いに、岡山城二ノ丸伊木長門屋敷内櫓の標識が立っています。「文久城下絵図」によると、二之丸には、重臣伊木長門守の屋敷や、藩主一族の池田桑太郎の屋敷があり、西には対面所がありました。伊木の屋敷は、現在の県庁の北付近、対面所の跡は現在の林原美術館のあるところです。

（岡山の地名〔岡山市地名研究会著、岡山市編集・発行、平成元年4月1日〕より）

Aルート《県庁前》

内田百閒記念碑園

B-4

・三光荘の少し南にある公園で旭川、烏城、後楽園などが一望できます。生垣に囲まれた庭園には、サクラ、ケヤキ、アラカシなどが植え込まれ、オトメザサの茂みがきれいに手入れされています。その中に高さ1mくらいの自然石の石組みがあり、これが百閒を顕彰する文学碑です。この碑は、岡山県郷土文化財団によって昭和60年に建てられ、作品の中の一節「私は古京の生まれであって、古京町には後楽園がある。子供の時から朝は丹頂の鶴のケレーケレーと鳴き渡る声で目を覚ました。」（古里を思う）の一文と直筆の俳句'春風や　川浪高く　道をひたし'百閒　が碑に刻まれています。

（御成町をとりまく歴史と自然を訪ねて〔御成町町内会編集委員会編集、平成6年3月〕より）

内田百閒句碑

C-4

・明治のころ古京郵便局があるあたり東側一帯に、造り酒屋「志保屋」がありました。志保屋が隆盛を極めた明治22年（1889）に百閒（本名栄造）は志保屋の一人息子として誕生しました。志保屋の跡に万成石の句碑があります。碑には、'木蓮や塀の外吹く俄風'の百閒の句が刻まれ、句碑の上には、幼い頃の百閒にゆかりのある牛の彫刻が置かれています。

（御成町をとりまく歴史と自然を訪ねて〔御成町町内会編集委員会編集、平成6年3月〕より）

お福の方(お鮮)供養塔

（岡山市指定文化財・石造美術）

C-4

・お福は、宇喜多秀家の生母、宇喜多直家の正室です。「お鮮さまのお墓を見れば、さても結構なお墓でござる」と昔から岡山で歌い継がれてきた手鞠歌にある「お鮮」とは岡山のクレオパトラといわれた宇喜多秀家の生母「お福」のことだと言われています。初めの夫勝山城主三浦貞勝が落城自刃後、宇喜多直家に寵愛され、さらに直家亡き後、高松城水攻に来た羽柴秀吉に見染められ、後に大阪城に招かれました。秀吉が秀家を自分の猶子とし、幼い時から養女として育てていた前田利家の娘豪姫を娶せて、岡山城を作らせ、その上五大老の１人としたのもすべてお福のおかげともいえます。お福の没年については諸説ありますが、宇喜多時代に森下の御堂にあった蓮昌寺の関係で、ここ塔の山の徳與寺境内にこのお墓があるのではないかと思われます。秀家は関ヶ原の合戦で律儀にも西軍の実質的統率者となって敗れ、岡山では宇喜多家に関わるものは抹殺されましたが、わずかに手鞠歌として庶民に語りつがれたのが、このお墓だといわれています。

（現地解説板〔岡山城築城400年記念　国際ソロプチミスト岡山、平成9年1月〕より）

玉井宮・東照宮

（岡山市指定文化財・建造物）

D-5

・玉井宮はもと児島郡光明崎（今は岡山市米崎）に鎮座していましたが、応徳2年（1085）の頃毎夜社頭より発する光が海面を照らし魚が寄りつかず、漁師達は不漁で困りました。そこで神前でお伺いをたてたところ、ご神前の御幣が舞い上がり飛んでゆき落ちる、そこに鎮座せよとのご神託がありました。その御幣が落ち立った所が幣立山です。天保2年（1645）藩主池田光政公が、この地に東照宮を勧請せられ、玉井宮は前の広場に移築されました。明治14年（1881）県社となり再びこの地に帰り東照宮と合祀され、社名も玉井宮・東照宮と改められました。

（現地解説板より）

カナメモチのトンネル道

E-4

・森林は山火事が大敵です。操山も、この山火事のため、いくたびか失われました。昭和20年頃、防火のため、峯筋に防火樹として、カナメモチ、ヤマモモを植え、雑草の刈払いなどの手入れを続け、この緑のトンネル並木に育ちました。

（現地解説板より）

護国神社

E-5

・明治2年（1869）、岡山藩主池田章政が近くの幣立山（玉井宮のあるところ）に社殿と碑を建て、明治維新の奥羽函館戦争の戦死者を祭ったのが始まりです。その後、現在の奥市に移され昭和17年（1942）に今の社殿が再建されました。大鳥居前の石灯籠には、維新の戦死者の名が刻まれていますが、現在では太平洋戦争による5万柱以上が祭られています。

（現代のまほろばOKAYAMA自然と文化をたずねて〔岡山市経済局観光物産課編集、昭和53年6月〕より）

操山山頂

E-4

・操山は、岡山市の周辺四山（四山とは、操山、半田山、京山、矢坂山をさす）の一つで、標高は、169mです。山頂一帯は自然休養林となっています。自然休養林は、四季折々の自然美や森林浴を楽しんだり、植物や野鳥を観察するため国が設けた"いこいの森林"です。この森林は、主にクス、ナナミノキ、カシ類など暖帯性の常緑広葉樹からなる天然林で、一部に植えたものもあります。中でも約650mに及ぶカナメモチのトンネル道は、山火事の延焼を防ぐため昭和20年頃に植えられた防火帯で、すばらしい散策路となっています。また、約700本からなるクスの森も、純林としては珍しい森林です。その他ヤマモモ、ツバキ、サクラなどが各所に植えられ季節の花を咲かせます。この操山は昔は岡山藩の森林で、明治2年（1869）の版籍奉還で国有林となりました。今も藩林の境界を示す"御林"の二字を刻んだ自然石が要所に残っています。更に、萩の塚古墳を始め、多数の古墳や明禅寺城跡などの史跡もあり、岡山の自然、歴史、文化を知る上で貴重な森林で風致保安林にもなっています。

（現地解説板より）

萩の塚古墳

F-4

・操山の古墳のうち9割近くが、横穴式石室をもつ古墳で、6、7世紀の古墳時代後期と呼ぶ時期に造られたものです。このあたりの山頂から南斜面に多く、わかっているものだけでもおよそ100基ぐらいあります。この萩の塚もその一つです。古墳時代の後半に造られた古墳の数が多いのは、5世紀までの古墳が、その地方に君臨した首長の強力な力を示すためのものでしたが、その後、次第に各地の小有力者の墓に変わってきたためでしょう。また、この時期に朝鮮からの影響をうけて、それまでの竪穴式石室から横穴式石室に変化していったことが考えられます。

（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月〕より）

旗振台古墳

F-5

・この古墳は、古墳時代中期のものと推定され、墳丘がくずれてかなり変形していますが、方墳という特殊な形をもった古墳です。松のまばらな林の中に、数多くの葺石が露出し、その下部近くに、隅の稜線がかなりはっきり見られます。1辺が約25mぐらいあり、この形の方墳としては大型ものです。もとは埴輪も残されていたようです。昭和31年（1956）の調査によると、墳丘には中央に竪穴式石室をはさみ南と北に粘土槨があり、この三つの部分に木棺が埋葬されていたようです。鉄製のよろいや鉄のやじりなどが出土しました。また、この古墳は、明治の終わり頃まで、大阪の米相場を旗振り信号で中継する信号台として使用されていました。

（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月〕より）

八畳岩古墳

G-4

・円墳（6～7世紀）で、径15m、高3m、横穴式石室全長8.9mです。石室を覆っていた表土が剥がれ、まるで飛鳥の石舞台を見るようです。ここからの瀬戸の海、小豆島、四国連山の眺めは一幅の絵のようです。

（手づくりマップ操山エリア〔岡山市市長公室地域振興課発行、平成7年〕より）

石高神社

H-5

・備前国総社神名帳にものっている神社で、むかしは、今の宮山から北にある高蔵山（金蔵山）の山上に大名持命を祭る石高神社があり、西の方の岩坪という所に須勢理姫命を祭る神社がありました。いつのころからかこの両社を現在宮山に移して合わせ祭ったと社伝にあります。幡多郷（沢田、円山、関、高屋、藤原、赤田にわたる地域）の総鎮守で、神社のある操山南部よりも、山を北に越えた百間川流域に勢力を広げる神社です。社殿は、宮山の山上に南を向いて建てられており、本殿、拝殿、幣殿、随身門などがあります。境内にある末社の中に金山神社があり、民俗学者がよく訪ねることで有名です。

（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月〕より）

大光院の法華題目石

（岡山県指定文化財・石造美術）

H-5

・日蓮宗大光院には、笠塔婆が二基あり、いずれも塔身に、「南無妙法蓮華経」を刻んだ法華題目石といわれる日蓮宗の石塔です。この二つの題目石は、造立年代不明の他の一基とともに、旧津高郡一宮村西辛川（現岡山市西辛川）の妙善寺に祭られていましたが、寛文年間（1661～1672）岡山藩の寺社整理に合って、大光院に移されました。しかし、明治になって西辛川に大覚堂が建てられ、三基のうち造立年代不明の四面題目石一基が移され、大光院には有銘の二基が残されています。

（現地解説板〔岡山教育委員会、昭和61年3月〕より）